

ヴェネツィア 2018 年日本語教育国際研究大会 におけるシンポジウム報告

ICJLE2018 Veneziaは「平和への対話」をテーマに、2018年8月3・4日、イタリアヴェネツィアにあるカ・フオスカリ大学サンジョッベキャンパスにて行われた。参加者694人という。ビジネス日本語研究会からは1日目の「日本語教育と企業文化シンポジウム」のパネル1に、奥田代表がパネリストとして、堀井がモデレーターとして登壇した。

シンポジウムパネル1では、産業界、ビジネス日本語研究者が、グローバル化した現代の産業界と日本語教育・学習の視点から社会的責任にどう取り組むべきかについて以下の発表をした。

【パネル1】平和な世界のための人材育成-企業要求とビジネス日本語教育

モデレーター：堀井恵子（武蔵野大学）

伊勢田兼之（在イタリア商工会議所）「日本企業が求める人材とは」

細田牧（イタリア三菱商事）「企業が求める日本語人材のニーズ」

八田香里（漢検、ビジネス日本語能力テスト）「ビジネス日本語能力テストが測定する能力と果たす役割」

奥田純子（ビジネス日本語研究会）「ビジネス日本語教育・研究のこれまでとこれから」

パネル2では、世界各国のビジネス日本語教育の現状を共有し、「理解・平和」へ導ける人材を育成するための日本語教育の役割と人材育成の課題について意見を交わした。

【パネル2】世界の5地域のビジネス日本語教育実践の意味と現状報告

モデレーター：マルチェッラ・マリオッティ（ヴェネツィア・カ・フオスカリ大学）

コンラット ハラルド（イギリス、シェフィールド大学）「海外の日本学卒業生のための日本への就労準備について」

ウォーカー泉（シンガポール国立大学）「シンガポールにおけるビジネス日本語教育の実践と意義」

古崎陽子（エチオピア、メケレ大学）「エチオピアにおける日本企業による投資活性化のための架け橋としての日本語教育の可能性」

ジョーンズ佳子（イギリス、ロンドン大学SOAS）「ビジネス日本語コース及びビジネス日本語スピーチコンテストの報告」

高見智子（アメリカ、ペンシルヴァニア大学）「米国大学における次世代グローバル人材の育成をめざす教育実践」

最後にパネル1と2の登壇者とフロアでディスカッションを行った。国際大会にふさわしく世界のいろいろな地域でビジネス日本語教育実践と研究が行われていることが報告された。また、大会のテーマ「平和への対話」とビジネス日本語教育の結びつきが焦点となったことも意義深い。シンポジウムには日本語教師だけではなく、学生、企業も多数参加したが、日本語・日本文化を海外で学んだ学生たちがグローバル社会でこれからより一層活躍できる場が広がるであろうという希望に溢れるシンポジウムとなった。

発表された内容は論集にまとめられ、オンラインでオープンアクセスできるようになる予定。更に録画された内容も許諾を得た上でオンライン配信する予定という。

<https://www.eaje.eu/ja/symposium/40>

2020年には香港日本語教師会主催、マカオ大学でICJLE2020 が行われる予定。

（文責：堀井恵子）

